

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-520	24-306	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Direct effects of alcohol on gut-epithelial barrier: Unraveling the disruption of physical and chemical barrier of the gut-epithelial barrier that compromises the host-microbiota interface upon alcohol exposure アルコールが腸上皮バリアに及ぼす直接的影響：アルコール曝露時に宿主-微生物叢インターフェースを損なう腸上皮バリアの物理的・化学的障壁の破壊の解明		
執筆者		
Cheng-Hao Kuo ¹² , Li-Ling Wu ³⁴⁵ , Hsiao-Ping Chen ⁶⁷ , Jun Yu ⁸ , Chun-Ying Wu ²⁴⁵⁶⁷		
掲載誌		
J Gastroenterol Hepatol. 2024 Jul;39(7):1247-1255. doi: 10.1111/		
キーワード	PMID	
アルコール誘発性腸管損傷、上皮代謝、腸管上皮バリア、腸管宿主防御、微生物調節分子、タイトジャンクション	38509796	
要旨		
<p>アルコール関連疾患の発症は多因子性であり、そのメカニズムには代謝異常、免疫応答の調節異常、および腸管宿主環境インターフェースの障害が関与している。新たな証拠は、アルコール誘発性損傷における腸管宿主-微生物叢相互作用の重要な役割を特定し、疾患の発症と進展への寄与を示唆している。腸管の恒常性を維持するため、腸管粘膜は、食物内容物や共生微生物叢を含む消化管内の外因性因子に対する第一防衛線として機能する。腸上皮バリアは、単層の腸管上皮細胞で構成される物理的バリアと、宿主調節因子や腸内共生細菌を捕捉する粘液層による化学的バリアから成る。本稿では、アルコール曝露による腸上皮バリアの破壊に関する最新研究をレビューし、アルコール及びその代謝産物が腸管上皮の調節能力に及ぼす影響を検証する。</p>		